笑顔がつくる、はつらつ島根。

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート　2024.1 January vol.65

新年を迎えて

新年あけましておめでとうございます。

昨年4月の県議会議員選挙では5期目の当選を果たすことができました。皆様のお力で獲得した議席を大切に守り、これからも皆様の声をしっかり受けとめて、県政に活かしてまいります。

世界各地で勃発する紛争などによる不安定な世界情勢、そして地球温暖化による気候変動は、物価高騰、大規模災害など私たちの生活にも影響を及ぼしています。生活の安心・安全を確保し、誰もが笑顔で暮らせる島根にするために、今年も精一杯努力してまいりますので、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

角　智子

十一月定例議会

一人一人が大切に守られる社会に

医療デジタル化の安全確保など

質問戦2日目に質問に立ちました。これまでも質問した項目がほとんどですが、マイナ保険証の安全性の確保や不登校児童生徒への支援、大阪学生会館の維持など、課題解決に向けに前に進んでいくことを願って取り上げました。

マイナ保険証で大丈夫か

昨年来から問題となっているマイナカードへの保険証切り替えでは、他人の情報や口座番号への紐づけがなどの問題が発覚し、総点検が行われ、対応に取り組まれています。

県が関わっている国民健康保険や高齢者医療保険制度での誤った紐づけは国に報告中ということで明らかにされませんでしたが、件数として少ないようです。そのほとんどは個人情報を紐づける際の人為的ミスによるもので、個人情報を紐づける際のルールをつくりミスを防ぐようにしているとのことでした。

拙速に進められたことが人為ミスを引き起こす原因にもなっています。

来年7月には保険証の更新があるのですが、来年秋の保険証廃止後もマイナカードに切り替えていない人には資格確認書が発行されるようです。そこまでするのなら保険証をデジタル化したカードに切り替えればよかったのではないかと思います。保険医療を受ける際には保険番号で資格確認できるのですからマイナンバーは必要とされません。マイナンバーカードに何もかも紐づけることのリスクは大きいと思います。

医療情報のネットワーク化

国が進めようとしている国一元化の医療ネットワークとすでに運用している島根医療情報ネットワーク（まめネット）とがどうなっていくのかについて質問しました。

中山間地域を多く抱え医療資源の乏しく、地域をまたがって医療機関等にかかる場合の多い島根では、先駆的に医療情報を医療機関や薬局、介護施設などで共有し、的確な治療と介護、薬の利用を進めています。もちろん独立したネットワークを構築し、利用の際には個人に常に確認することやウィルスチェックを常にするなど、セキュリティ管理を徹底しているとのことです。県民の目が届く範囲のものであれば、監視もしやすくなります。国の医療情報ネットワークとまめネットの関係がどうなるかはまだ分かりませんが、まめネットを運用していく中で得られた知見が、今後の医療情報ネットワークに生かされていくことを願っています。

不登校児童生徒の学びの場

民主県民クラブで今年度調査した広島県の個別最適な学びの確保の取り組みや、県内の雲南市や出雲市の教育支援センターの取り組みをもとに質問しました。

広島県では県が市町村の取り組みに積極的に関わっていることを感じましたが、島根県では今回もそうでしたが、義務教育は市町村教育委員会の管轄と一歩引いている感が強く、島根の子どもを育てるという観点からいえばもっと市町村に寄り添った取り組みができないものかと感じます。人口規模が小さい市町村では、難しいかもしれませんが、県と市町村が一緒になって不登校特例校の設置に向けて努力され、様々な形の学びの場を作っていくことが、不登校児童生徒の学びの意欲を醸成していくのではないかと思います。そのためのチャレンジを県教育委員会はしてほしいと考えています。

大阪学生会館の活用

首都圏以外の道府県では首都圏に学生会館を作り、県人学生の生活を支援しています。残念ながら島根県は東京学生会館を老朽化により閉鎖しましたが、大阪学生会館は存続しており、この先も存続してほしいとの声が上がっています。

一時利用が減ってきていましたが、学生会館の存在と兵庫県や京都府の大学への通学も可能なことなどをPRし、令和2年には40%まで下がっていた入寮率を令和4年度60%まで引き上げることができています。今後も生徒や保護者、教員に周知することで利用を促進し、少しでも学生の生活費を支援し、安心して学ぶ環境が確保されることを期待しています。

人権擁護に向けて

ジャニーズの性加害問題など人権に関わる問題が様々な形で起きています。こうした問題が重大な問題として取り扱われてこなかったことがより深刻な問題に発展している現状を見るにつけ、人権意識を高めていくことの必要性を強く感じます。

その意味で、悩みなどを抱える人に接する機会のある人たちの知識やスキルの研修などをはじめ、すべての人の人権を尊重し擁護する環境づくりに今後とも取り組まれることを求めて質問しました。

廃炉計画の期間延長了承

議会初日に知事から意見照会のあった島根原発1号機廃止措置計画の変更に関わる事前了解について防災地域建設委員長報告があり賛成多数で委員長報告を可決しました。

これは廃止計画の第2段階で予定されている使用済み燃料の搬出譲渡しが、六ケ所村の再処理工場の竣工が延期されたことにより6年間延長されるものです。

そもそも、使用済み核燃料を再処理し、新たな燃料として再利用する計画は、当初計画から延期が続き、未だその見通しが立っていません。六ケ所村にある使用済み燃料の保管プールは満杯状態で、1号機にある使用済み燃料は搬出することができず、それができないことには廃炉も進めることができません。

私は1号機の廃止については賛成している立場から、あくまでも廃炉を進めてほしいという観点で委員長報告には賛成しました。ただ、使用済み燃料をどうするのか、国が考える再処理工場が完成しない場合には、使用済み燃料の処分をどうするのかについての考えを示してもらわなくてはいけません。

Tomachan Report

笑顔がつくる、はつらつ島根。

とまちゃん通信

発行者 角 智子　〒690-0063島根県松江市寺町67-23
TEL.(0852)28-8880　FAX.(0852)28-8881
E-mail sumi@tomachan.net
ＵＲＬ http://www.tomachan.net/

鳥取・島根県議会合同研修会

島根県議会「民主県民クラブ」と鳥取県議会「会派民主」が11月1～2日に海士町で研修会を行いました。7年前、山内町長時代にも合同研修会で海士町での調査を行ったことがありますが、今回はその時から議員メンバーも変わり、改めて海士町での調査を行いたいという鳥取県議会の要望で再び海士町での調査研修を行いました。

潮風ファームで話を聞く

若者に選ばれる地域づくり

海士町では、新しいことをやっている、町民が関わっている、若者を受け入れている、支援があるという要素がある「若者に選ばれる地域」を、そして、自己肯定感がある、何かの役に立っている、自分の存在を認めてくれているという幸福度の高い地域を目指しています。

そうした視点に立って町おこしに取り組まれており、そこから、高校魅力化、大人の島留学、特定地域づくり事業組合などの事業が始まり、地域の産業おこし、事業のブラッシュアップ化の取り組みが進んで、島外からの人の流入が盛んになって町の活性化となっています。島に上陸するとあちこちで若い人が活動している姿に出会い、人口減少が進む地方にあって、ここは活気のある町という他の町とは違う印象を受けます。

町内を移動しながら、様々な取り組みの現場を見学しました。隠岐牛の肥育に取り組む潮風ファームでは、隠岐で生まれ隠岐で育った「隠岐牛」にこだわり、東京を市場にブランド化を図ったことで事業実績を伸ばしています。ただここのところの物価高騰が影響し、厳しい経営を強いられているとのこと。その上に、来年4月からトラックドライバーの時間外労働の960時間上限規制と改正改善基準告示が適用され、労働時間が短くなることで輸送能力が不足し、「モノが運べなくなる」可能性が懸念されている2024年問題があり、牛の輸送をどうするのか、今その対策に苦労されています。

自然を生かしたワインづくり

一度島民の方が進めかけていたワインづくりに改めて挑戦しようとバンコクから島にIターンした石川潤さんが取り組んでいます。ワイナリーやブドウ畑を見学しながら、島の風土に合ったブドウづくりから始め自然派のワインづくりに挑戦している石川さんの話を聞きました。町も協力し、石川さんのネットワークを生かしてワイン造りが始まっています。

「島前高校魅力化プロジェクト」・「大人の島留学」、「還流おこしプロジェクト」など、島に人を寄せ、島の活気を生む事業を次々に展開している海士町の魅力を再発見する研修でした。海士町には、手間を掛ける、祭を伝え続ける、忘れかけている地域コミュニティを大切にする営みがありました。

海士ワインについて聞く

総務委員会県外調査

総務委員会では「地域を担う人材の育成に向けた大学との連携」を調査テーマに県外調査を行いました。麻布大学、青山学院大学、福井県に移動して、福井県庁、福井県立大学に伺い、首都圏の大学では地方就職への取り組み、地方大学では県内大学進学、県内就職への取り組みについて調査を行いました。

美郷町をフィールドに麻布大学の取り組み

鳥獣被害に苦しむ中山間地域の課題解決などの研究を進めている麻布大学は、美郷町にフィールドワークセンターを設けて共同研究や地域と学生の交流などを行っています。

中山間地域で暮らしたことのない学生にとっては大きな刺激になります。また、町にとっても、若い人たちがやってくることが活気を呼びます。こうした取り組みが地方に若者を呼び込む取り組みになっていくことに期待します。

また、青山学院大学では、Uターン地方就職希望者への就職支援を行っています。

大学と地域の企業との連携

福井県立大学では、福井の元気や持続可能性を支える大学としての機能強化を図っています。地域・社会とのつながりを重視し、地域の教育力の活用や県内の施設等を実習の場とする全県キャンパス化を進め、現場力と創造性を備えた人材育成に取り組んでいます。また、大学が持つ学術研究資源を生かして、世界水準の研究を進め、地域課題の解決につながる研究を強化し地域貢献活動を進めています。「ふくい企業価値共創ラボ」プログラムでは大都市圏の中核人材を福井県の企業に受け入れ、企業の付加価値の創造と地域活性化を図り、また、県立大学の協力研究員としてゼミなどに参加してもらう取り組みをしています。

福井県立大学にて

大学と地方との連携、あるいは大学と県内企業との連携をどのように行っているかなど興味深い話を聞きしました。自治体と各機関との連携や学生、保護者への情報提供などやるべきことに、島根県でもさらに知恵絞っていかなければなりません。

会派県内調査

出雲市の教育の取り組み

11月12日、民主県民クラブで出雲市の外国籍の児童生徒への日本語指導や不登校児童生徒への支援の取り組みについて調査を行いました。

出雲市では外国人労働者が多く、家族とともに来日しているため、市内の小中学校には外国籍の子どもが多くいます。そのための日本語指導を行っている出雲市の拠点校の一つである塩冶小学校に伺いました。出雲市教育委員会の松本副主任から出雲市の取り組みを、塩冶小学校長の岡崎先生からは小学校での取り組みを、実際の教室の見学もさせていただきながらお話を伺いました。

少人数でそれぞれの子どもの日本語習得段階に応じた教育に取り組まれていました。

また、出雲市の教育支援センター「光人塾」では塾長の落部先生から、塾内の見学もさせていただきながら取り組みについてのお話を伺いました。子どもたちも興味のあるところから先生や仲間とコミュニケーションをとり、学ぶ意欲につなげていました。

いずれも県内では先進的な取り組みをしておられますが、県のさらなる人的な支援が必要と感じました。教員不足の中で人材確保は難しい課題ですが、解決に向けての一層の取り組みが必要です。

レインボーパレードin松江

11月25日、島根県で初めて開催された島根レインボーパレードに立憲民主党の仲間で参加しました。午前中の雨もやみ、松江駅前から松江城まで約1時間かけて、市民の皆さんにLGBTQ(性的少数者)への理解を求めて当事者や支援者など参加者200人が行進しました。

島根県と県内全市町村は、多様な性を認め合い性的少数者の方々が自分らしく生きることのできる環境をつくるため、10月1日から「島根県パートナーシップ宣誓制度」を共同で開始しました。これは、お互いを人生のパートナーと約束する性的少数者のカップルが協力して共同生活を行うことを宣誓し、島根県がその宣誓書を受領したことを証明する制度です。法律上の婚姻とは異なり法的な効力が生じませんが、性的少数者のカップルが抱える困りごとが少しでも解消され、誰もが自分らしく暮らすことができる社会の実現を目指すものです。

この制度が活用され、性的少数者への理解が進むことを願っています。

松江城前で参加者の皆さん

PRINTED WITH SOY INK
地球に優しい大豆インク使用